

私自身、医師10年目であり、心臓カテーテル検査に携わる時はほぼ IVUS を施行しています。また、我々の施設の諸先輩方は米国のスタンフォード大学の IVUS ラボで勉強された先生が多く、カテ中の IVUS 施行時の念入りな指導や院内でのグループカンファレンス、学会発表などを通じて私自身 IVUS に関してはそれなりの知識はあるつもりでした。ただ、今回、提示していただいた症例での IVUS の attenuation 所見に関しては曖昧な知識しかなく、以前から疑問に思っていました。今回、担当チューターの寺島 充康先生に IVUS での講義していただき、attenuation が no flow/slow flow に関与する不安定 plaque(量などを含めた)との関連性があると指摘をいただき、以前から疑問に思っていた事の一つが解消されて更に一步前進することができました。また、入口部がはっきりしない total の病変への approach においても、側枝に IVUS を挿入して入口部を見つけるなど、PCI における IVUS の可能性は無限大であり、私自身もまだまだ未熟だと痛感させられました。今後も引き続きカテーテルに関わるにあたり、IVUS を通じて臨床や研究に励んでいきたいと考えています。